

供用中の電線共同溝の円滑な移設に向けた設計上の取り組みについて

発表者名	栗田 春香
執筆者名	
株式会社千代田コンサルタント 交通事業部	栗田 春香 中野 康弘 吉富 一八 鏑木 祥平 中村 敏寛
技術顧問	窪田 光作
国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所	三浦 淳(現:2027年国際園芸博覧会協会) 金子 謙太郎 下地 涼大(現:沖縄総合事務局)

概要
<p>道路改良事業実施のために、現在供用中の電線共同溝を移設（延長：上り側 260m、下り側 246m）する必要が生じた。移設が必要な区間は、沿道に商業ビルや商店・居宅が連担し、利用者の多いバス停が設置、歩行者・自転車や車両の通行も多い。</p> <p>さらに、道路内には既設の電線共同溝の他に地下埋設物や地上物件が多く存在するものの、歩道幅を現況よりも縮減（3m→2.5m）する計画であった。このため、供用中の電線共同溝の移設に当たっては、商業活動・日常生活・道路の通行等への影響をできるだけ低減し得る取り組みが求められた。ところが、供用中の電線共同溝の移設事例は“まれ”であり、今回の事業関係者にとって未経験かつ知見が無いため、度重なる調整・試行錯誤を重ね、その移設設計を行った。本稿では今後の参考となるよう、供用中の電線共同溝の円滑な移設を図るために移設設計において行った主な取り組みについて紹介する。</p>